

V e-Tanzawa の運用・拡張

鈴木透¹⁾・山根正伸²⁾・笹川裕史²⁾・吉田剛司³⁾・雨宮有⁴⁾・原慶太郎⁵⁾

Operation and Application of e-Tanzawa

Toru Suzuki, Masanobu Yamane, Hiroshi Sasakawa, Tsuyoshi Yoshida & Tamotsu Amamiya
& Keitaro Hara

要約

丹沢大山総合調査において構築したデータベースである丹沢自然環境情報ステーション (e-Tanzawa) を運用・拡張するために、そのデータベースを基に作成した様々な Web サイトのポータルサイトとしての e-Tanzawa (<http://e-Tanzawa.jp/>) を作成した。このポータルサイトには、調査団を対象とした e-TanzawaSupport, 県民を対象としたアトラス丹沢の Web 版や丹沢大山総合調査の現状を見渡せるたんざわレポート Online, 神奈川県に生息する希少種を紹介する神奈川県レッドデータブックなどのサイトに加え、丹沢大山自然再生基本構想のパブリックコメントを収集するサイトが含まれている。このようにデータベースとして構築した e-Tanzawa を基にしたポータルサイトとしての e-Tanzawa は、必要に応じて Web サイトの追加や意見の収集など、自然再生における多様な主体の様々なニーズに対して柔軟に拡張できる Web サイトとして構築・運用した。

1. はじめに

多様な主体が参加する自然再生事業では、様々な情報の公開、共有が重要である (金子, 2004)。丹沢大山総合調査では、様々な情報を集約し、情報の公開・共有が行えるように丹沢自然環境情報ステーション (e-Tanzawa) というデータベースを構築した (第 5 章第 2 節 I)。その運用・拡張方法の一つとして、データベースである e-Tanzawa を基に Web サイトとして作成した調査団を対象とした e-TanzawaSupport, 県民を対象としたアトラス丹沢や丹沢大山総合調査の現状を見渡せるたんざわレポート Online や丹沢大山自然再生基本構想のパブリックコメントを収集するサイトなどを作成し、それらを集約したポータルサイトとしての e-Tanzawa (<http://e-tanzawa.jp/>) を作成し、運用している (図 1)。このポータルサイトの運用は、セキュリティや維持管理の関係上ミラーサーバーでの運用を行っている。また、ポータルサイトとしての運用は、必要に応じてサイトの追加など様々な要求に対して柔軟に拡張できるためであり、現在も随時更新やサイトの追加を行っている。本節では、このポータルサイトとしての e-Tanzawa 内において公開もしくは公開予定のサイトの目的と内容について記述した。



図 1. ポータルサイト e-Tanzawa のトップ画面

2. アトラス丹沢 Web

丹沢大山総合調査において明らかになった調査結果やそれに基づいて作成された丹沢大山自然再生基本構想を地図帳 (アトラス) として表現したアトラス丹沢は、平成 16 年度に第一集、平成 17 年度に第二集が冊子として作成されている。

アトラス丹沢 Web は、冊子であるアトラス丹沢を素材とし、Web 化したサイトである。アトラス丹沢 Web は平成 17 年度までにアトラス丹沢第一集についてまとめたサイトを作成、公開し (図 2)、平成 18 年度末にはアトラス丹沢第一集、第二集をまとめたサイトとして更新、公開した。



図 2. アトラス丹沢 Web のトップ画面

1) NPO 法人 EnVision 環境保全事務所 2) 神奈川県自然環境保全センター 3) (財) 自然環境研究センター 4) (有) GIS インスティテュート 5) 東京情報大学



図3 アトラス丹沢 Web の表示画面例

平成 17 年度までにアトラス丹沢第一集を基に作成したサイトは、丹沢大山地域の概要「丹沢の自然環境」、現状「私たちと丹沢」、課題「丹沢が抱える問題」、対策「丹沢の保全・再生に向けて」についてまとめてあり、それぞれの項目について地図と共に説明・写真などを付記している（例：図 3）。

このようにアトラス丹沢 Web は、e-Tanzawa 上において、丹沢大山地域や丹沢大山総合調査について地図を用いてわかりやすく表現し、視覚的に理解することができるように作成し、県民を含めた多くの方々に、丹沢大山地域で何が起きていて、これから何を行う必要があるのかを伝える Web サイトとして構築した。

3. たんざわレポート Online

丹沢大山総合調査については、丹沢大山総合調査実行委員会が運営管理する「丹沢大山の今を調べる丹沢大山総合調査」や情報整備チームが運営管理する丹沢自然環境情報ステーションなどの県民に伝えるサイトは作成していたが、ある一定の調査内容に特化しており、県民の目線に立って「丹沢大山総合調査の現状」をわかりやすく伝えるために、たんざわレポート Online を作成した（図 4）。このサイトは、既存の一定の内容に特化したいくつかのコンテンツの特徴を生かしながら、それらをまとめる意味を持つサイトにすることを考慮して作成した。

このサイトは視覚的効果・いまの情報の表示など Web の特徴を生かし、トップページにおいては、動的コンテンツや図・写真などを利用し、丹沢大山総合調査のしくみとながれを視覚的にわかりやすく表現している。また、丹沢大山総合調査を段階ごとに分け、「今何をしているのか?」、「何がわかってきたのか?」を現在進行形でわかりやすく伝えることができるように作成した。このように Web サイトならではの表現方法で、伝えたい内容が誰にでもわかるようなサイトを実現した。

上述のようにこのサイトは、丹沢大山総合調査の各分野、また各段階の内容に特化した個々のコンテンツをまとめる総合的な存在としての役割を持つことから、このサイトにアク



図 4. たんざわレポート Online のトップ画面



図 5. 動的コンテンツによる表示例



図 6. コンテンツの表示画面例



図 12. 広葉樹図鑑のトップ画面



図 15. 写真登録システムのトップ画面



図 13. 野生きのこ図鑑のトップ画面



図 16. e-TanzawaSupport のトップ画面



図 14. 広葉樹図鑑の検索結果の表示画面

5. 神奈川県レッドデータブック

神奈川県における希少種の現状を示すレッドデータブックは、冊子で 1995 年に神奈川県立生命の星・地球博物館により「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」が作成されている。これらの情報を基に、神奈川県レッドデータブックのサイトを作成した (図 9)。

トップページでは、レッドデータブックやレッドデータブックについての説明などを記載し、さらに種の分類、ランク、和名、地図からの種の検索も可能である。検索により、種の一覧が表示され (図 10)、種をクリックすることにより詳細な種情報が表示されるように作成した (図 11)。

6. その他のサイト

ポータルサイトとしての e-Tanzawa には、以上に記載した Web サイトの他にも、広葉樹図鑑 (図 12) や野生きのこ図鑑 (図 13) の Web サイトを作成した。これらはこれまで神奈川県が作成していたサイトを基に作成した。広葉樹図鑑は、葉のつき方、形などから検索でき、検索結果は種の一覧として表示され、種を選択することにより詳細な情報や写真が表示される (図 14)。

また、WebGIS (前節参照) や丹沢写真登録システム (図 15)、e-TanzawaSupport (図 16) のサイトも作成した。

このように構築したデータベースとしての e-Tanzawa を基にして作成した様々なサイトをとりまとめるポータルサイトとしての e-Tanzawa を運用することにより、調査団、県民など様々な主体に、情報の公開から意見・情報・資料の収集まで多様なニーズに応じてサイトを作成、公開してきた。このようなデータベースの運用、拡張は、複雑に問題が絡み合う自然環境の保全、管理や自然再生などにおける政策立案の合意形成を図るために有用な方法であると考えられた。

文献

金子正美, 2004. 「無目的時空間情報システムの構築—情報の共有化に向けて—」. 環境省・(社) 自然環境共生技術協会編, 自然再生—釧路から始まる—, pp.138-142. ぎょうせい.